

来月、蔵王舞台に山岳マラソン

コース歩き、安全確認

NPO法人

山形市蔵王温泉スキー場

で来月、初開催する山岳マラソン「ヒュッテ・ヤレン杯蔵王温泉国際トレイルランニング大会」を前に、大会を企画した東京都内のNPO法人が15日、現地でコ

ースを下見した。

同日、山形入りしたのはNPO法人「元氣・まちネット」の矢口正武代表(67)と戸沢村出身の2人。起伏のある林道、砂利道などをコースにするため15、16

スキー場のPR、活性化が

目的。矢口代表は「樹氷や温泉で有名な蔵王は宮城県にある、と思っっている県外の人には少なくない。イベントを通して山形の蔵王をアピールしたい」と話す。合わせて、元氣・まちネットが修復を担う旧白洲山荘「ヒュッテ・ヤレン」の認知度アップを図る。東日本

大震災の義援金も募る計画だ。

6月15日開催の同大会は、標高差千メートルを体感できる25キロコースなど3クラスを設定。参加申し込みは終了しており、当日は200人を超すランナーが緑まぶしい蔵王を駆け抜ける。矢口代表は「大会を盛り上げるため、地元農産物などを販売したい人がいれば連絡してほしい」としている。連絡先のアドレスは

ttp://www.genki-mac
hinet.com/wp/zao-trail



コースを下見した。同日、山形入りしたのはNPO法人「元氣・まちネット」の矢口正武代表(67)と戸沢村出身の2人。起伏のある林道、砂利道などをコースにするため15、16

の両日、踏査し危険箇所を把握、スタッフの配置ポイントの確認を進める。大会は同

コースを下見する元氣・まちネットのメンバー
山形市蔵王温泉
大阪を拠点に活動する染色家竹林和美さんの作品展が、山形市の大沼山形本店で開かれている写真。
竹林さんの作品は泥染めと藍染めを組み合わせるのが特徴。泥は奄美大島のも



のを使うため、毎回現地に赴いて染める。染める回数